



3人そろって 「ハイ、チーズ！」

写真左から息子の昂紀(1歳) お友達の岩田大輝くん、荻野遙ちゃん。初めはマタニティスクールで知り合った私たちの集まりに、子どもたちがついてきてる感じでしたが(その頃にサークル“T3ネットワーク”をつくり現在活動中)今では、子どもたちの遊びに私たちがついていってる感じです。3人とも第1子で、家ではわがまま放題、性格も、興味のあることもさまざまで、3人で遊ぶと、取ったり取られたり、やったりやられたりですが、我慢しながら、刺激し合いながら少しずつ成長しているようです。昂紀は家にも「たいちゃんの」「はーちゃんは？」などと2人の事が気になってしょうがないようです。また、3人そろって総合公園へ遊びに行きましょう。たいちゃん、はーちゃん、これからも、やんちゃなこうちゃんをよろしくね。

大字中田 北島希久子さん 31歳



マイ・カー・デニッシュ 花は心のおしゃれ 花は心のビタミン!

大好きなユリの花の香りが小さな庭一杯に咲く季節は、一年中で一番心がはずみます。最近では、近くの公園のイベント地へ花の便りを楽



しみながら、孫の情操教育を兼ねドライブしています。私は少々日本画を習っており、花を育てる楽しみと絵を書く楽しみで共通しています。私の母は生前、庭に咲く花が好きで家中に添えておりました。私も母同様に庭一杯に花を咲かせながら「花は心のおしゃれ」「花は心のビタミン」を心がけていきたいと思っております。



長谷町の松永富美子さん

家の前は、朝早くから散歩する方が多いので一瞬の時のやすらぎがあればと花を育てています。花と暮らすということは、やすらぎをもたらす日々の活力を与えてくれます。古河総合公園を散歩して思うのは、桃や蓮だけでなく四季折々の花が咲き、近隣のたくさんの方々にも総合公園を訪れることを思っています。

KOGA 万華鏡

治水・利水・古河藩領

古来、水辺は、多くの人が集う空間、人々に豊かさをもたらしてくれる場所でした。反面、ひとたび暴れ出した川は、たちまち富を流失させる厳しさも持ち合います。

古の時代、人々はこうした川々の気まぐれに、無抵抗という方法でしか、つきあえませんでした。治水と利水、相反するこの要件こそ、水辺の人々が克服を試みてきた課題だったのです。

「麻久良我が許、我なる古河のまちも、万葉の時代から、水辺の豊かさを求め行き交う人々にぎわってきました。関東平野に乱流するいくつもの河川の結節点、そんな古河のまちのこと、古くから人・物資の集散地として発展しています。その一方、何世代にもわたり、水との戦いも強いられたのでした。



絵はがき「渡良瀬川改修計画書」(大正時代・伊藤家資料)

さて、江戸初期のこと、古河周辺の河川に、驚くような改修工事が施されます。幾筋もの分流を統廃合し、さらに人工の運河を切り開く、いわば治水と利水を両立させようとしたはじめての国家的大事業といっても過言ではないでしょう。このプロジェクトには、1596年から60年という歳月が費やされています。江戸湾に注がれていた利根川が銚子方面に付け替えられたのは、まさにこのときのことでした。

しかし、江戸時代を通じて、渡良瀬川・利根川流域の古河町および藩領村に、水害のなくなることはありませんでした。氾濫の頻発からの脱却、治水と利水の調和を得るまでには、いましばらくの時間と、土木工学の近代化を待たねばならなかったのです。(テーマ展「渡良瀬遊水地をとりまく村々」9/1まで)

古河歴史博物館学芸員 永用俊彦